

安全性データシート

改定日: 2022年2月11日

前作成日: 2021年5月13日

SDS番号: 478-1

セクション 1: 物質 / 混合物、および企業 / 業務の識別

1.1. 製品識別

720 CCGチェーン、ケーブル、ギア潤滑剤-希釈剤付き

1.2. 物質または混合物の関連識別用途、並びに推奨用途

ケーブル、チェーン、オープンギアに使用します。熱、高温のもの、火花、裸火および他の着火源から遠ざけること。禁煙。

1.3. 安全性データシートのサプライヤ情報

会社:

A.W. CHESTERTON COMPANY

860 Salem Street

Groveland, MA 01834-1507, USA

電話: +1 978-469-6446 Fax: +1 978-469-6785

(月-金: 8:30-5:30 PM 東部標準時)

SDSの要求: www.chesterton.com

Eメール (SDSに関する質問): ProductSDSs@chesterton.com

Eメール: customer.service@chesterton.com

供給元:

1.4. 緊急時電話番号

1日24時間、年中無休

Infotrac (追跡) 電話番号: +1 352-323-3500 (料金受信人払い通話)

セクション 2: 危険有害性の要約

2.1. 物質または混合物の分類

2.1.1. GHSによる分類

引火性液体、区分 4, H227

眼刺激、区分 2, H319

2.1.2. 追加情報

H(危険)ステートメントの全文: セクション2.2および16を参照。

2.2. ラベル項目

GHSによるラベル付け

危険の絵表示:



信号語: 警告

危険有害性情報: H227 引火性液体。

H319 強い眼刺激。

使用上の注意:	P210	火および高温のものから遠ざけること。禁煙。
	P264	取扱後は皮膚よく洗うこと。
	P280	保護手袋/保護眼鏡/保護面を着用すること。
	P305/351/338	眼に入った場合: 水で数分間注意深く洗うこと。次にコンタクトレンズを着用していて容易に外せる場合は外すこと。その後も洗浄を続けること。
	P337/313	眼の刺激が続く場合: 医師の診断/手当てを受けること。
	P370/378	火災の場合: 消火にはCO ₂ 、化学用粉末、泡、水霧のいずれかを使用してください。
補足情報:	P403/235	換気の良い場所で保管すること。涼しいところに置くこと。
	P501	許可された廃棄物処理プラントで内容物/容器を処分してください。
	なし	

2.3. その他の危険性

繰り返し接触すると皮膚の乾燥や亀裂を起こすことがあります。

セクション 3: 組成、成分情報

3.2. 混合物

危険成分 ¹	重量%	CAS番号	GHS分類
水素化処理された重ナフサ(石油)*	25 - 35	64742-48-9	引火性液体 4, H227 吸引性呼吸器有害性 1, H304
ピロリン酸四ナトリウム	0.5 - 1.5	7722-88-5	眼に対する重篤な損傷性 1, H318

*ベンゼンの含有量は0.1 % w/w 以下。

H(危険)ステートメントの全文: セクション16を参照。

¹分類基準: 労働安全衛生法, 毒物および劇物取締法, GHS

セクション 4: 応急処置

4.1. 応急処置情報

吸入:	新鮮な空気のある場所に移動してください。呼吸が停止している場合は、人工呼吸を実行してください。医師の診断を受けてください。
皮膚への付着:	石鹸水で皮膚を洗浄してください。刺激症状が発生もしくは持続する場合は、医師に相談してください。
目に入った場合:	水で数分間注意深く洗うこと。コンタクトレンズを着用していて容易に外せる場合は外すこと。その後も洗浄を続けること。1630
呑み込んだ場合:	医療担当者の指示がない限り、無理に吐かせないでください。意識がある場合は、水で口をゆすがせ。直ちに医師の診断を受けてください。

応急手当を行う人の保護: 個人に対する危険がある場合や適切な訓練が行われていない場合は、行動を起こさないでください。犠牲者に手当てを施している間は製品に触らないでください。個人用保護具に関する奨励事項についてはセクション888.2.2参照してください。

4.2. 最も重要な徴候と影響(急性および遅延)

目に刺激を与えます。推奨暴露限度以上の蒸気濃度は目や呼吸器系に刺激を与え、頭痛や目眩を起こすことがあり、知覚麻痺、その他の中枢神経系の異常を起こすことがあります。

4.3. 緊急に医師の診察および特別な治療が必要な徴候

症状の手当てをしてください。

セクション 5: 火災時の処置**5.1. 消火剤**

適切な消火剤: 二酸化炭素、乾燥薬品、発泡 あるいは 水霧

不適切消火剤: 大量の水噴射

5.2. 物質または混合物から生じる特別な危険性

有害な燃焼生成物: 炭素・硫黄の・カルシウム・リンの酸化物。

その他の危険性: 火災で急速に脱重合を起こし引火性の蒸気を発生する可能性があります。200° C以上の温度で脱重合を起こし、極めて引火性の高いブタンモノマーを発生することがあります。蒸気 が低い場所や囲われた場所に蓄積したり、あるいは発火源まで相当な距離を移動 しフラッシュバックを引き起こすことがある。

5.3. 消防の際のアドバイス

消火活動による流出液を排水口や水路に流さないでください。消防士に自給式呼吸器の着用を勧めてください。

セクション 6: 漏出時の処置**6.1. 作業者の注意、保護装備、緊急時の手順**

その場を退去してください。充分換気してください。セクション8で指定された露出制御と人体保護を利用してください。

6.2. 環境に対する注意

下水、河川、水路に流さないでください。

6.3. 閉じ込めおよび清掃の方法・材料

流出分は小さな場所に回収してください。発火源に近づけないでください。禁煙。発火源が除去できなければ、水で洗い流してください。147

6.4. 他のセクションの参照

廃棄処理についてはセクション13を参照してください。

セクション 7: 取扱い及び保管上の注意**7.1. 安全な取扱いのための注意**

移動の際は、機器を電氣的に接地し固定してください。セクション8で指定された露出制御と人体保護を利用してください。作業区域で飲食、喫煙をしないでください。飲食、喫煙の前に手や顔を洗ってください。可動装置に関わる他の製品と同様、注意して使用してください。疑問がある場合は使用前に装置を停止してください。

7.2. 安全な保管のための条件 (配合禁忌を含む)

乾燥して涼しく換気の良い場所に保管してください。使用時以外は容器の蓋を閉めてください。

7.3. 具体的な最終用途

予防策は特になし。

セクション 8: 暴露防止及び保護措置				
8.1. 管理パラメーター				
成分	日本産業衛生学会 OEL		ACGIH TLV	
	ppm	mg/m ³	ppm	mg/m ³
水素化処理された重ナフサ(石油)	N/A	N/A	171 *	1,200 *
ピロリン酸四ナトリウム**	N/A	N/A	N/A	N/A
* 付録Hに記述されたACGIH TLVs®およびBEIs®の「ある種の精製炭化水素溶剤蒸気混合物の相互算出法」に基づく。				
** 米国国立労働安全衛生研究所 (NIOSH) REL (TWA): 5 mg/m ³				
生物学的限界値				
構成成分に対する生物学的暴露限界はありません。				
8.2. 曝露制限				
8.2.1. 設備対策				
条件は特になし。許容限界を超える場合は、充分換気してください。				
8.2.2. 作業員の保護対策				
呼吸器系の保護: 通常不必要。許容限界を超える場合は、認可されたミスト用有機蒸気呼吸マスクを使用してください。				
手袋: 耐薬品性手袋(例:ネオプレンあるいはニトリル。				
目 / 顔の保護: 安全ゴーグルあるいは眼鏡。				
その他: 繰返しあるいは長時間にわたる皮膚への付着を防ぐ不浸透性の衣服。				
8.2.3. 環境暴露措置				
セクション6と12を参照。				
セクション 9: 物理的及び化学的性質				
9.1. 基本的な物理・化学的性質に関する情報				
形状	半流動	pH	適応せず	
色	オフホワイト	動粘	700 cSt @ 40° C (基油)	
臭気	かすかな臭気	水溶性	不溶性	
においの閾値	未定	分配係数:n-オクタノール/水	適応せず	
沸点、初留点及び沸騰範囲	190° C	20・Cでの蒸気圧	0.04 kPa (0.3 mm Hg)	
融点・凝固点	適応せず	相対密度	0.88 kg/l	
揮発率%(容量比)	30%	蒸気密度(空気=1)	> 1	
引火性	可燃性液体	蒸発率(エーテル=1)	< 1	
高/低引火性あるいは高/低	LEL(爆発下限) 0.7%	重量比芳香物含有率 (%)	未定	
爆発限界	UEL(爆発上限) 6%	爆発性	なし	
引火点	62° C	酸化性	なし	
方法	PM閉カップ	粒子特性	適応せず	
自己発火温度	332° C			
分解温度	未定			
9.2. その他の情報				
なし				

セクション 10: 安定性及び反応性

10.1. 反応性

セクション10.3と10.5を参照。

10.2. 化学的安定性

通常の状態では安定。

10.3. 危険な反応の可能性

200° C以上の温度で脱重合を起こし、極めて引火性の高いブタンモノマーを発生することがあります。

10.4. 避けるべき条件

炎、熱、スパーク、および高熱表面。

10.5. 配合禁忌薬品

強酸、液体塩素や濃縮酸素のような強力酸化剤。

10.6. 危険な分解物

通常の保管・使用条件では、有害な分解生成物は生成しないはずで。

セクション 11: 有害性情報

11.1. 毒性影響に関する情報

通常使用時の主な接触経路: 皮膚や目への付着。

急性毒性 -

経口: ATE-混合物 > 5,000 mg/kg

物質	テスト	結果
水素化処理された重ナフサ(石油)	致死量50(LD50)、ラット	> 5,000 mg/kg (類推)
ピロリン酸四ナトリウム	致死量50(LD50)、ラット	1,624 mg/kg

経皮: ATE-混合物 > 5,000 mg/kg

物質	テスト	結果
水素化処理された重ナフサ(石油)	致死量50(LD50)、ラット	> 5,000 mg/kg (類推)
ピロリン酸四ナトリウム	致死量50(LD50)、うさぎ	7,940 mg/kg

吸入: 有害を起こさないとされています。推奨暴露限度以上の蒸気濃度は目や呼吸器系に刺激を与え、頭痛や目眩を起こすことがあり、知覚麻痺、その他の中枢神経系の異常を起こすことがあります。

物質	テスト	結果
水素化処理された重ナフサ(石油)	致死濃度50(LC50)、ラット、4時間	> 5 mg/l (蒸気、類推)

皮膚腐食性/刺激性: 長時間あるいは繰り返し皮膚に付着すると、脱脂や炎症を起こすことがあります。

眼に対する重篤な損傷性/強い眼刺激。

眼刺激性:

物質	テスト	結果
ピロリン酸四ナトリウム	目の炎症、うさぎ	重篤な目の損傷 / 激しい刺激

呼吸器または皮膚の感作: 既知の影響はありません。

物質	テスト	結果
水素化処理された重ナフサ(石油)	皮膚の感作	過敏性なし(類推)

胚細胞突然変異原性: 水素化処理された重ナフサ(石油): 類似物質のデータに基づき非変異原性とされています。ピロリン酸四ナトリウム: 入手可能なデータによると分類基準を満たしていません。

がん原性: 本製品は、国際がん研究機関(IARC)あるいは欧州化学機関(ECHA)の規定する発がん性物質を含有していません。

生殖毒性: 水素化処理された重ナフサ(石油): 生殖毒性物質ではないとされています、これは類似物質のデータに基づいています。ピロリン酸四ナトリウム: 生殖毒性物質ではないとされています。

STOT - 単回暴露: 有害を起こさないとされています。

STOT - 反復暴露: 水素化処理された重ナフサ(石油): 長期にわたる、または反復暴露により臓器の障害を起こさないとされています、これは類似物質のデータに基づいています。ピロリン酸四ナトリウム: 入手可能なデータによると繰り返し晒されても大きな悪影響はないとされています。

吸引性呼吸器有害性: 入手可能なデータによると分類基準を満たしていません。

その他の情報: 既知の影響なし

セクション 12: 環境影響情報

本製品用に特別に決定された生態毒性データはありません。以下の情報は類似した物質の成分と生態毒性に基づいています。

12.1. 毒性

水生生物に害はないとされています。

12.2. 持続性・分解性

水素化処理された重ナフサ(石油): 本質的に生分解可能とされています; 空気中で急速に生分解するとされています。ピロリン酸四ナトリウム: 無機物質。

12.3. 生物蓄積の可能性

ピロリン酸四ナトリウム: 生体内蓄積は有りません。

12.4. 土壌中の移動性

半流動。非水溶。環境移動性を決定する際は、本製品の物理、化学特性を考慮してください(セクション9参照)。水素化処理された重ナフサ(石油): 本物質は揮発性が高く、環境中に放出されると急激に大気内に蒸発します; 沈殿物と廃水固形物に分離するとは考えられていません。

12.6. その他の悪影響

既知の影響なし

セクション 13: 廃棄上の注意

13.1. 廃棄処理方法

汚れたものは、正式に認可された設備で焼却してください。地方自治体、国家条例を調べ、最も厳しい条件を遵守してください。

セクション 14: 輸送上の注意

14.1. UN番号

ADR/RID/ADN/IMDG/ICAO: 適応せず

14.2. UN固有輸送名

ADR/RID/ADN/IMDG/ICAO: 無害、規制なし

14.3. 輸送危険性分類

ADR/RID/ADN/IMDG/ICAO: 適応せず

14.4. 梱包グループ

ADR/RID/ADN/IMDG/ICAO: 適応せず

14.5. 環境への危険性

適応せず

14.6. ユーザーへの特別な注意

適応せず

14.7. Marpol 73/78附則IIIによる貨物輸送およびIBCコード

適応せず

14.8. その他の情報

適応せず

セクション 15: 適用法令

15.1. 物質または混合物に固有の安全性・保健・環境規制 / 法規

日本PRTR

クラスI薬品:

なし

クラスII薬品:

なし

その他の国内規制: 労働安全衛生法(安衛法)

名称等を表示し、又は通知すべき危険物及び有害物: ピロリン酸四ナトリウム

セクション 16: その他の情報

略語一覧:

ACGIH:米国産業衛生専門家会議
 ADN:内陸水路による危険物の国際輸送に関する欧州協定
 ADR:道路による危険物の国際輸送に関する欧州協定
 ATE:急性毒性推定値
 BCF: 生物濃縮係数
 cATpE: 変換後の急性毒性推定値
 GHS:世界調和システム
 ICAO:国際民間航空機関
 IMDG:国際海上危険物規定
 LC50:試験動物の50%を死亡させる致死濃度
 LD50:試験動物の50%を死亡させる投与量
 LOEL:最小作用量
 NOEC:最大無作用濃度
 NOEL:最大無作用量
 N/A:該当せず
 PEL:許容暴露限度
 RID:鉄道による危険物の国際輸送に関する規定
 SDS:安全性データシート
 STEL:短時間暴露許容濃度
 STOT: 特定標的臓器毒性
 TLV:暴露限界
 その他の略語はwww.wikipedia.orgで調べることができます。

主な参考文献およびデータ出典:

独立行政法人 製品評価技術基盤機構(通称 ナイト、NITE)
 欧州化学物質庁(ECHA) - 化学物質に関する情報
 米国国立医学図書館毒物学データネットワーク(TOXNET)
 化学分類および情報データベース(CCID)

GHSによる混合物の分類方法:

分類	分類手順
引火性液体 4, H227	テストデータに基づく
眼刺激性 2, H319	算出方法

関連するH(危険)-ステートメント: H227: 引火性液体。
H304: 飲み込んで気道に侵入すると生命に危険のおそれ。
H318: 重篤な眼の損傷。
H319: 強い眼刺激。

その他の情報: なし

本改訂によるSDSの変更: 新配合を示すために変更を全て記入してください。

本情報は使用物質の供給元が発行したデータにのみ基づいており、混合物自体に基づくものではありません。使用者の特別な目的に対する製品の適合性に関する保証は一切明示、暗示されていません。適合性は使用者自身が決定しなければなりません。